

オリコミタウン操作説明書

OperationManual of OrikomiTown.

Version 3.7
差分マニュアル

目 次

| | |
|-------------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 1 計測を行う | 2 |
| 1.1 距離計測 | 2 |
| 2 プロット操作を行う | 4 |
| 2.1 住所マッチングウィザード | 4 |
| 2.2 スパイダー表示を行う | 8 |
| 3 エリア操作を行う | 13 |
| 3.1 分析レポートを作成する | 13 |
| 4 エリア・プロットのインポート/エクスポート | 14 |
| 4.1 KML ファイルに書き込む | 14 |
| 5 集計・グラフ操作を行う | 17 |
| 5.1 表示指標選択の簡易化 | 17 |
| 5.2 集計済みグラフへの指標の追加 | 17 |
| 5.3 按分方法の選択／按分時の集計方法指定 | 18 |
| 5.4 明細の細分集計 | 19 |
| 5.5 集計結果条件抽出 | 20 |
| 5.6 店舗相関分析データ作成 | 26 |

はじめに

本書では、オリコミタウン Version 3.7 で新たに追加／変更した機能)について、その操作を説明しています。

以下に追加・改修した機能を一覧します。

- 計測機能
 - ・ 距離計測機能に、「所要時間表示」「縦断高低図表示」機能を追加しました。
- プロット機能
 - ・ 中心プロットと周辺のプロット(例えば店舗と顧客)を線で結んで地図上に示す「スパイダー表示」機能を追加しました。顧客の分布範囲などを地図上で確認することができます。
- エリア・プロットのエクスポート
 - ・ EarthFinderで作成したエリア、プロットをKML形式でエクスポートする機能を追加しました。店舗商圈範囲などをGoogleの航空写真に重ね合わせて表示することができます。
- 集計機能
 - ・ グラフパネル上の操作に以下の追加／改修を行い、利便性等を向上させました。
 - ・ 表示指標選択の簡易化
 - ・ 集計済みグラフへの指標の追加
 - ・ 按分方法の選択
 - ・ 按分時の集計方法指定
 - ・ 明細の細分集計
 - ・ 新たな機能として、集計結果条件抽出機能と、店舗を中心とした商圈について、統計値、近傍プロットとの距離、プロットの属性値などの集計を行う「店舗相関分析データ」機能を追加しました。店舗売り上げと周辺人口数などの相関関係を検討するためのデータを集計することができます。

次の機能は、オリコミタウンハイブリッド版のみの提供となります。

- プロット機能
 - ・ 住所マッチングウィザードで、番地号レベルのマッチングが行えるようになりました。
(オリコミタウンユーザは従来通り町丁目レベルのマッチングとなります)
- エリア機能
 - ・ エリアパネルで作成したエリアを商圈として、マーケットレポートパネルの分析レポートができるようになりました。
(オリコミタウンにはマーケットレポートパネルはありません。)

1 計測を行う

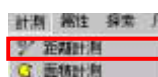
距離計測に以下の機能を加えました。

- ・ 結果画面に、直線距離の合計に加えて、所要時間の表示を追加
- ・ 縦断高低図表示機能を追加

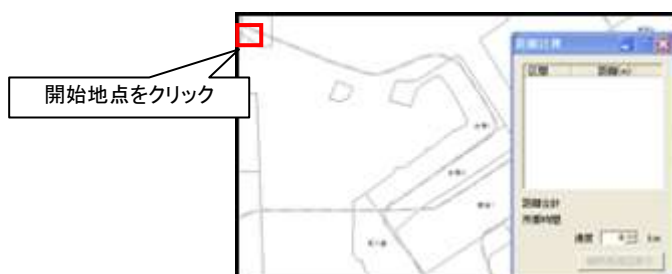
1.1 距離計測

以下では距離計測について説明します。

1. 「距離計測」画面を表示します。




2. 計測したい区間の開始地点をクリックします。




3. そのままマウスを移動させると、上記クリックした地点から現在のマウスカーソル地点までを結ぶ直線が描画されますので、計測したい区間のもう一方の地点をクリックします。



 画面上の区間番号と、地図上に表示されている番号の直線が対応しています。


4. 上記 2 と 3 の操作を続けて行うことにより、連続した複数の区間を計測することができます。



 直前の計測区間を取りやめる場合は、右クリックを押して「ひとつ戻る」を選択してください。



5. 計測を確定する場合は確定したい地点でダブルクリックします。

 右クリックを押して「確定」でも同じです。



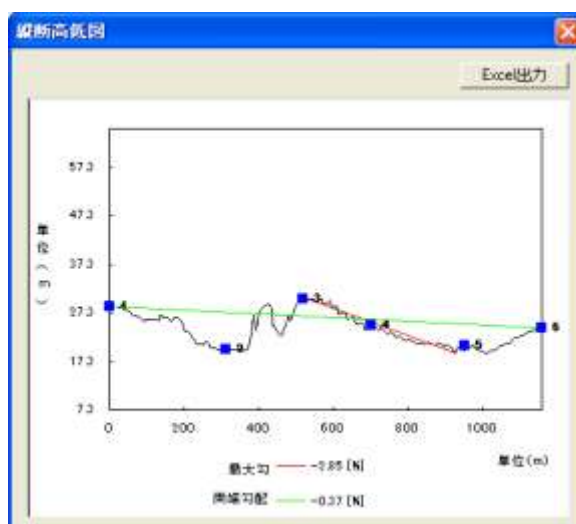
 計測確定後に地図上をクリックすると、今までの計測結果をクリアし、再度計測処理を開始します。

計測結果として、直線距離以外に、設定した時速による所要時間が表示されます。

| | |
|------|-----------------------------------|
| 距離合計 | 3.78 Km |
| 所要時間 | 57 分 |
| 速度 | <input type="text" value="4"/> km |

時速を変更するには、直接値を入力するか、▲▼をクリックして値を増減してください。

6. [縦断高低図表示]ボタンをクリックすると、始点－終点間の縦断高低図が表示されます。



[Excel 出力]ボタンをクリックすると、この高低図と現在表示中の地図が Excel に保存できます。

2 プロット操作を行う

以下の機能の追加／改修を行いました。

住所マッチングウィザード

- ・ 番地・号レベルのマッチング **ハイブリッド版のみ**
(オリコミタウンユーザは従来通り町丁目レベルのマッチングとなります)
- ・ 最低マッチング住所レベルの指定を追加 **ハイブリッド版のみ**
- ・ マッチングレベルごとの件数表示を追加

機能追加

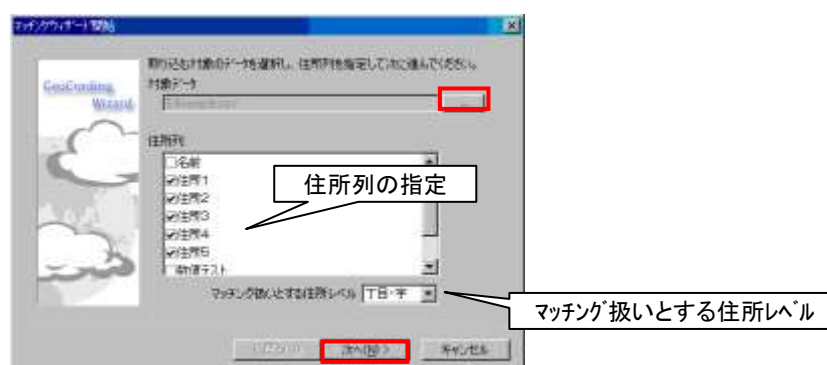
- ・ スパイダー表示機能を新たに追加

2.1 住所マッチングウィザード

2.1.1 住所マッチングウィザード(番地号レベルマッチング)

ハイブリッド版のみ

1. ジオコーディングを行う元のファイルを指定し、住所列がどれかを指定します。ファイルは CSV あるいは Excel 形式です。Excel 形式の場合にはシートの選択も行います。



⚠ 文字列中に「,(カンマ)」が入るようなデータがあると正常に動作しない恐れがありますので、ご注意ください。

ℹ “住所”と名の付く項目は予めチェックが付きます。複数チェックした場合は上部から連結されますのでご注意ください。(住所1に“東京都”、住所2に“千代田区”となっていた場合に住所1と住所2にチェックをしますと“東京都千代田区”でジオコーディングを行います)

ℹ マッチング扱いとする住所レベル

この選択は番地・号レベルの精度の住所データが搭載されているときに表示されます。

番地・号レベルでのジオコーディングを行った場合、そのレベルでマッチングした住所は EarthFinder に取り込まれますが、マッチしなかったものはアンマッチとなり住所情報を修正しないと地図に取り込まれません。

アンマッチのものも地図に落としたい場合は、最低マッチングレベルで番地・号よりも下のレベルの住所を指定します。例えば、ここで「丁目・字」を指定した場合、番地・号レベルではマッチしないが丁目・字でマッチしたデータは、丁目・字の代表点の位置(緯度経度)に取り込まれます。

どの住所レベルに何件マッチしたかは、ジオコーディング終了時の画面に表示されます。

| マッチング住所レベル | | | |
|------------|----|-------|------|
| アンマッチ | 0件 | 大字・通称 | 4件 |
| 都道府県 | 0件 | 丁目・字 | 1件 |
| 市区町村 | 0件 | 番地 | 23件 |
| | | 号 | 186件 |

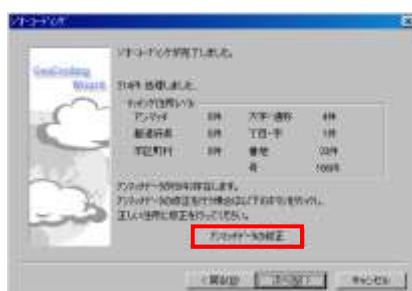
2. ジオコーディングが開始されますのでしばらくお待ちください。



- 全ての住所がマッチした場合
全ての住所がマッチした場合は以下のような画面となりますので[次へ]ボタンで次に進みます。

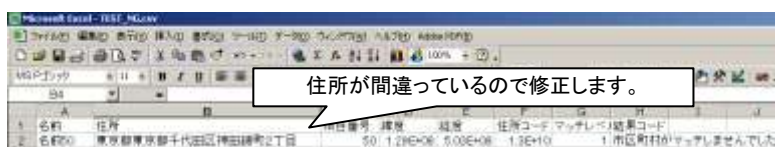


- マッチしない住所が存在する場合
 - 1 つでもマッチしない場合は以下のような画面となります。(アンマッチデータを修正する場合は[アンマッチデータの修正]ボタンをクリックします)



この段階でマッチしたもののみで良ければ[次へ]ボタンをクリックします。

- アンマッチデータを編集すると CSV に関連付いているソフトウェア (Excel など) が起動しますので、間違っている住所を編集して上書き保存します。



上書き保存時、Excel から色々確認メッセージが表示されますが、すべて「はい」で問題ありません。

- 上記で修正したデータを再度ジオコーディングする場合は[はい]をクリックします。しない場合は[いいえ]をクリックします。



- d. [はい]とした場合は再度ジオコーディングが開始されますので、住所が全てマッチすればプロット登録の設定画面が表示されます。

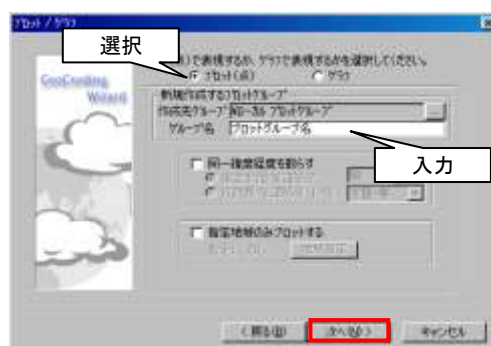
まだ未マッチがあるようであればこの項目を繰り返し実施します。

アンマッチデータ件数について

「アンマッチ」とは、原則的に、マッチングレベルが最初の画面で選択した「マッチング扱いとする住所レベル」に満たなかったデータとなります。ただし、マッチレベルが選択したレベルに満たないものでも、データ内の住所に完全にマッチした住所がある場合は、それはマッチデータとなります。例えば、住所に市区町村名までしか入っていないデータがあった場合、その市区町村に対応する住所データがあればマッチデータ扱いとなります。

2.1.2 住所マッチングウィザード(プロット登録)

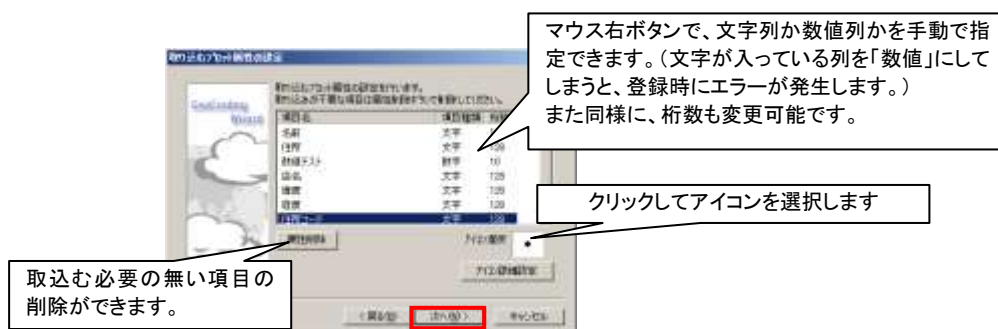
- 以下の画面で「プロット」を選択し、登録するプロットグループ名を入力して[次へ]ボタンをクリックします。



同一緯度経度に登録されるプロットを均一に散らすことができます。

地域を指定できます。

- 取り込む属性を文字列とするか数値とするかを選択し、登録するアイコンをアイコンが表示されている部分ををクリックすることによって選択します(選択しない場合は標準のアイコンになります)。設定完了後、[次へ]ボタンをクリックします。



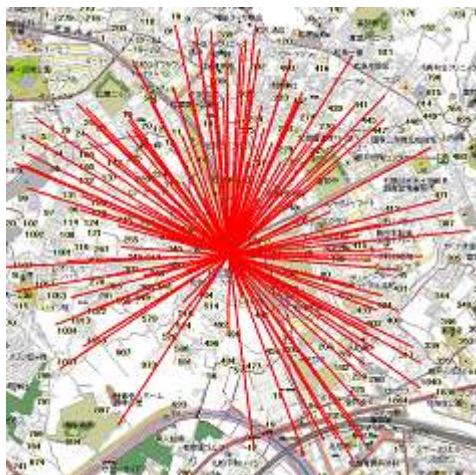
マッチング住所レベルを属性として取り込んでおくと、後で個々のプロットがどの住所レベルでマッチしたのかを参照できます。

| | |
|---|-------|
| 0 | アンマッチ |
| 1 | 都道府県 |
| 2 | 市区町村 |
| 3 | 大字・通称 |
| 4 | 丁目・字 |
| 5 | 番地・ |
| 6 | 号 |

番号と住所レベルの対応

2.2 スパイダー表示を行う

スパイダー表示は、あるプロット(例えば店舗)と他のプロット(その顧客)を地図上で直線(リンク線)で結んで表示する機能です。これにより、位置と距離を視覚的に捉えることができます。



2.2.9 スパイダー表示を行う

1. 「スパイダー表示」画面を表示します。



プロット機能メニュー



プロットグループ欄ポップアップメニュー



以降、この画面上でスパイダー表示のための設定を行います。操作の流れとしては、

- A. 起点となるプロットの選択
 B. リンク先のプロットの選択、表示属性の設定

↓

スパイダー表示実行となります。

- A① 起点のプロットグループを選択します。



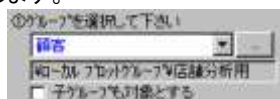
- A② 起点プロットを選択します。

選択したプロットグループの中にあるプロットが一覧表示されますので、その中からスパイダー表示の起点とするプロットを選択し、チェックを付けます。



一覧上での選択時にプロットの名称で検索を行うことができます。「☐表示範囲から検索」をチェックすると、現在地図画面に表示しているプロット内からの検索となります。

- B① リンク先のプロットグループを選択します。



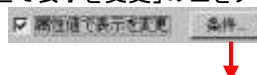
- B② リンク線の表示属性を設定します。



リンク線の、線色、線種、線幅を選択します。

リンク先プロットの属性によってリンク線の表示属性を変更することができます。例えば、顧客プロットに来店回数の属性項目がある場合、来店回数によって色や太さを変更して表示することが可能です。以下その手順を説明します。属性値で表示を変更する必要がない場合は、B③にお進み下さい。

属性値で表示を変更する場合は「☒属性値で表示を変更」の口をクリックし、[条件]をクリックします。





1)属性項目を選択します。

「属性項目」の右端の▼をクリックすると、リンク先プロットグループの属性一覧が表示されますので、そこから値によって表示属性を変更したい属性項目を選択します。



2)条件を選択します。



3)表示属性を選択します。



4)設定した条件、表示属性を決定します。

[↓]をクリックすると、表示条件設定一覧に登録されます。



[↑]をクリックすると登録した表示条件設定が解除されます。

表示条件の判定は、上から順に行われます。判定順序を変更するには、変更したい条件式を選択して、一覧右横の[↑][↓]で行います。

5)条件の適用範囲を選択します。

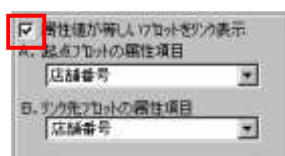
☐ 上記条件に合致しないものは対象外とする

ここにチェックを付けると、条件に該当しないリンク先プロットへのリンク線表示は行いません。例えば、来店回数10回以上の表示条件を設定し、ここをチェックした場合、来店回数が10回未満の顧客へのリンク線は表示されません。チェックしない場合は、来店回数が10回未満の顧客へのリンク線は、呼び出し元の画面で設定した表示属性に従います。

B③ 起点とリンク先を結びつける属性項目を指定します。

スパイダー表示は、起点として選択したプロットと、リンク先として選択したプロットグループを結びつけて表示するものです。例えば、店舗と顧客で考えた場合、店舗ごとに顧客のプロットグループが分かれているケースでは、選択した店舗を対象に、その店舗の顧客グループ内の全プロットを結びつけて問題ありません。が、顧客プロットグループ内に複数の店舗の顧客が混在しているケースでは、リンク対象の顧客を選別する必要があります。このような場合は、ここでその設定を行います。

不要な場合は、この設定は必要ありませんのでB④に進んで下さい。

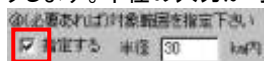


- 1) 属性値が等しいプロットをリンク表示をクリックしてチェックします。
- 2) 「A. 起点プロットの属性項目」「B. リンク先プロットの属性項目」が有効になりますので、2つのプロットを結びつける属性項目を選択します。

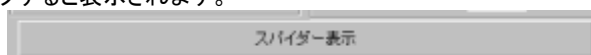
B④ 対象範囲を指定します。

ここでは、起点とリンク先のプロット間の距離の上限を指定します。距離の上限値を設定することで、例えば、一時利用の遠方の顧客といったもののリンク表示の対象外とすることができます。

設定を行うには、☐指定するをクリックします。半径の入力が可能になりますので、km単位で入力します。



[スパイダー表示]をクリックすると表示されます。



地図上にスパイダー表示が行われ、一覧リスト欄にも表示されます。

| 起点 | 線分 | 条件(属性名) | 式 | 値 |
|-------|----|---------|---|---|
| 沼南藤ヶ谷 | | | | |

リンク線表示設定で、複数の条件で表示属性を設定している場合は、それぞれが1行ずつ表示されます。

2.2.10 作成したスパイダー表示を変更する

一覧リスト上で変更したいスパイダー表示を選択し、マウス右ボタンをクリックするとポップアップメニューが表示されます。



[リンク線表示設定]

リンク線の表示属性が変更できます。



[削除]

現在選択している起点のスパイダー表示を削除します。


1つの起点プロットについて、属性値による表示設定を行っている場合は、その起点についてのスパイダー表示がすべて削除されます。

[位置移動]

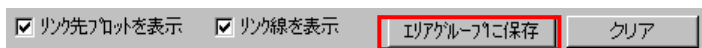
起点プロットの位置を中心に地図表示を移動します。

2.2.11 スパイダー表示を保存する

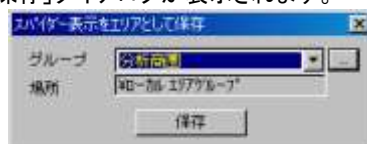
作成したスパイダー表示は、その見た目（線分形状）をエリアデータとして保存できます。

 面データとしては保存されませんので、集計対象のエリアとして利用することはできません。

1. 画面下部の[エリアグループに保存]をクリックします。



「スパイダー表示をエリアとして保存」ダイアログが表示されます。




2. 保存先のプロットグループを選択します。
3. [保存]ボタンをクリックします。

2.2.12 スパイダー表示を ON/OFF する

- ・リンク先プロットの表示 On/Off
- ・リンク線表示の On/Off
- ・スパイダー表示のクリア

が画面下部のコントロールから行えます。



 [クリア]は表示がクリアされるのではなく、この画面で作成したスパイダー表示用データがクリアされます。クリア後に再度表示するには、再びスパイダー表示用データを作成する必要があります。

3 エリア操作を行う

以下の機能の追加／改修を行いました。

- ・ エリアパネルで作成したエリアを商圈としたマーケットレポートパネルの分析レポートの作成。 **ハイブリッド版のみ**

3.1 分析レポートを作成する

ハイブリッド版のみ

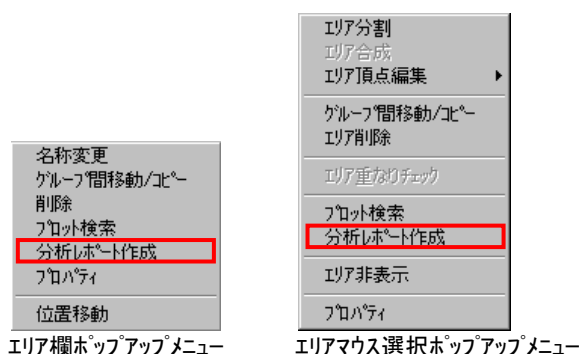
エリアパネルで作成したエリアを商圈として用いて、マーケットレポートパネルの分析レポートを作成することができます。

レポート内容はマーケットレポートのものと同一ですが、以下の制限があります。

- ・ マーケットレポートパネルで作成中の調査地点はすべてクリアされます。
- ・ いちどにひとつのエリアしか指定できません。すなわち、
 - ・ 指定されたエリアを1次商圈のエリアとしてレポートを作成します。2次、3次商圈エリアは指定できません。
 - ・ エリアを複数指定した複数地点分析レポートは作成できません。

1. 対象とするエリアを指定する

対象エリアは、エリア欄ポップアップメニュー、もしくはエリアマウス選択ポップアップメニューから指定できます。



メニューから「分析レポート作成」を選択すると、すぐに集計処理が開始されます。

2. 出力シート選択、出力先指定などレポート設定を行う。

集計が終了すると、通常のマーケットレポート作成で「レポートExcel出力」を選択したときと同じく「分析レポート設定」画面が表示されます。



「レポート出力する分析内容」「出力先」を設定し、[レポート出力実行]ボタンをクリックすると、レポート作成処理が行われ、分析レポート Excel ファイルが作成されます。

4 エリア・プロットのインポート/エクスポート

Version3.7 では以下の機能の追加／改修を行いました。

- ・ エリア、プロットの KML 形式での出力機能を追加。

4.1 KML ファイルに書き込む

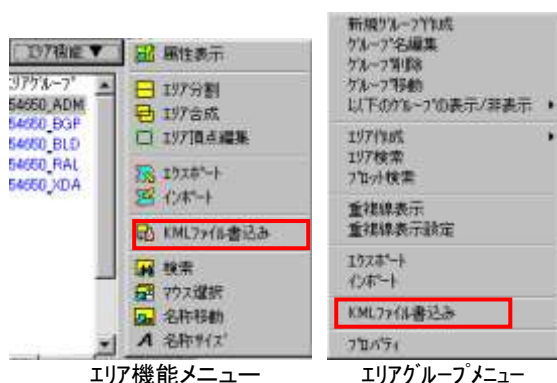
EarthFinder で作成したエリア、プロットを KML ファイルとして出力し、GoogleEarth、GoogleMap 上で表示させることができます。

地図や販売店エリア、購入されたエリアデータ、プロットデータには著作権があります。それらを KML ファイルに出力して第三者に提供したり、公開することは著作権侵害となります。

GoogleMaps で取り込みの際「一般公開」か「限定公開」か選択出来ますが、「限定公開」の場合でも、URL を知っていれば誰でもアクセス出来てしまいますので、個人情報を含むデータの場合にはご注意ください。

4.1.1 エリアデータの KML ファイルへの書き込み

1. エリアパネルの機能メニュー、エリアグループメニューのいずれかから「KML 書き込み」を選択します。



2. エリアパネルの機能メニューから選択した場合は、書き込み対象グループの選択画面がでますので、グループを選択します。



3. Windows の「名前を付けて保存」ダイアログが表示されますので、保存先フォルダ、ファイル名を入力し「保存」をクリックします。



⚠ エリアの表示属性にハッチパターンを設定している場合は、塗りつぶしで出力されます。

4.1.2 プロットデータの KML ファイルへの書き込み

1. プロットパネルの機能メニュー、プロットグループメニューのいずれかから「KML 書き込み」を選択します。



プロット機能メニュー

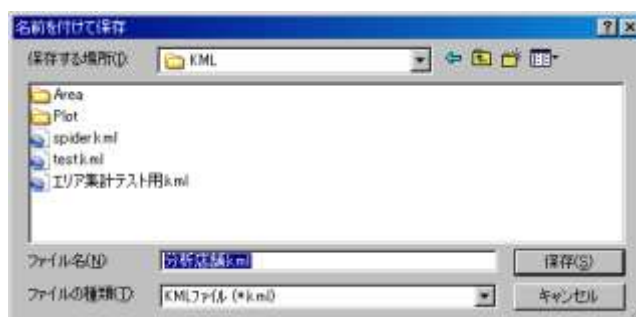



プロットグループメニュー

2. エリアパネルの機能メニューから選択した場合は、書き込み対象グループの選択画面がでますので、グループを選択します。



3. Windows の「名前を付けて保存」ダイアログが表示されますので、保存先フォルダ、ファイル名を入力し「保存」をクリックします。



 プロットのアイコンは反映されません。ピンで出力されます。アイコン条件設定も同様です。条件でアイコンを変更するように設定していても同一のピンで出力されます。


5 集計・グラフ操作を行う

以下の機能の追加／改修を行いました。

- ・ グラフパネル上の操作に以下の追加／改修を行い、利便性等を向上。
 - ・ 表示指標選択の簡易化
 - ・ 集計済みグラフへの指標の追加
 - ・ 按分方法の選択
 - ・ 按分時の集計方法指定
 - ・ 明細の細分集計
- ・ 「集計結果条件抽出」機能を追加
- ・ 「店舗相関分析データ」機能を追加。

5.1 表示指標選択の簡易化



 指標をクリックすると、表示指標を変更することができます。



指標名を選択すると、現在の表示設定（ランク数等）で界面グラフを表示します。

「クロス集計」および「バブルグラフ」を選択した場合は、「グラフ表示編集」画面が開くので、そこで表示対象の指標を選択してください。

その他（棒、円）が選択された場合は、全指標を用いて当該グラフを表示します。

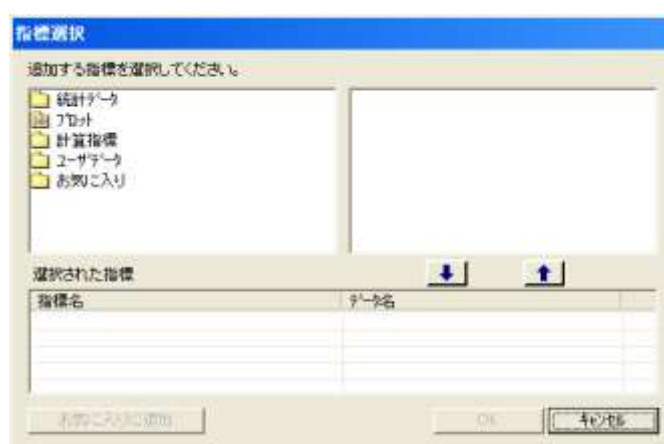
5.2 集計済みグラフへの指標の追加

すでに作成したグラフに対して、後から指標を追加することができます。

グラフ欄でグラフを指定してから右ボタンポップアップメニューで「指標追加」を選び、「指標選択」画面を表示します。



グラフ欄ポップアップメニュー



集計ウィザードの統計指標と同様の操作で追加する指標を選択します。

5.3 按分方法の選択／按分時の集計方法指定

集計ウィザードで、エリアグループ単位で集計を選んだ場合、集計実行前に下に示す集計方法の選択画面が表示されます。



集計方法の選択

| | |
|--------------|---|
| 面積按分 | 行政区(メッシュ)にエリアが掛かっている割合で、統計値を按分して集計します。 |
| 重心が含まれれば集計 | 行政区(メッシュ)の重心点がエリア内に含まれていれば、その行政区(メッシュ)の統計値を 100%集計します。 |
| Xx%以上かかれれば集計 | 行政区(メッシュ)がエリアに指定した割合以上かかっている場合は、その行政区(メッシュ)の統計値を 100%集計します。0%を指定すると、少しでもかかっている場合は集計、を意味します。 |

集計値算出方法

エリアの集計値として、エリア内に含まれる行政区(メッシュ)の値をどのように集計した結果を採用するかを選択します。それぞれの値を「合算」するのが一般的ですが、「合算」の他に、「平均」「最大」「最小」も選択可能です。

算出方法のカラムをクリックすると、一覧が表示されますのでそこから選択してください。



5.4 明細の細分集計

グラフデータ表示画面に明細の細分集計機能を追加しました。

プロットを集計している場合は、明細データ(行政界内／商圏内のプロット)について、明細集計を行うことができます。



グラフデータ表示画面で[明細集計]ボタンをクリックすると、明細集計中の表示が出て、終了後「明細データ集計」画面が表示されます。



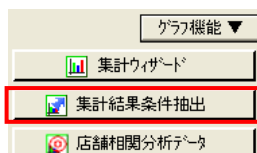
集計する属性項目を変更すると、明細集計中が表示され、終了後右側の集計結果一覧に反映されます。

[Excel 出力]ボタンをクリックすると、現在表示している明細が Excel ファイルに保存されます。

5.5 集計結果条件抽出

以下では、集計結果を条件指定で絞り込む方法について説明します。

1. グラフを作成した後、「集計結果条件抽出」ボタンをクリックします。



2. 対象のグラフを選択してください。



3. 条件はランク、指標値、空白地域、吸引エリアのいずれか(あるいは複数)で設定します。設定後、「抽出実行」ボタンにより、集計結果を絞り込むことができます。



5.5.1 条件の設定

ランク、指標値、空白地域、吸引エリアによる条件設定方法について説明します。

5.5.1.1 ランク条件を設定する

1. 「ランク」タブを選択し、「ランクによる抽出を行う」のチェックをオンにします。



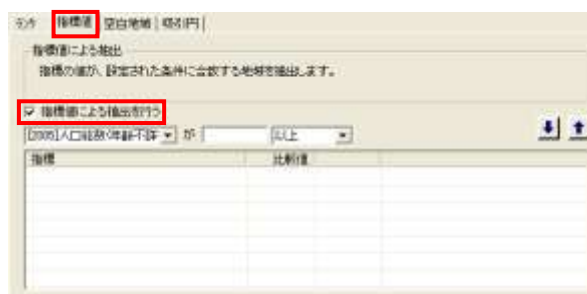
グラフの種類は界面グラフが対象となります。

2. 抽出したいランクをマウスで選択していきます。再度マウスをクリックすると、未選択に戻ります。

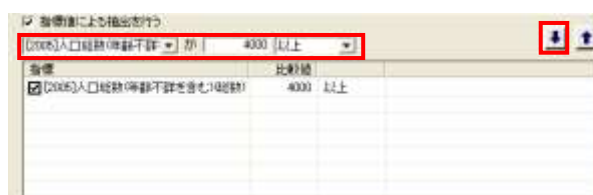


5.5.1.2 指標値条件を設定する

1. 「指標値」タブを選択し、「指標値による抽出を行う」のチェックをオンにします。



2. 指標値を選択し、条件の選択と数値の入力を行い[↓]ボタンをクリックします。条件のキャンセルは[↑]ボタンを使用します。



5.5.1.3 空白地域条件を設定する

1. 「空白地域」タブを選択し、「空白地域による抽出を行う」のチェックをオンにします。

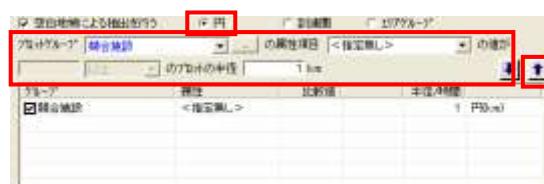


2. 空白地域エリアを設定します。
空白地域の選択種類には「円」「到達圏」「エリアグループ」があります。
ASP サービス(オリコミタウン/ハイブリッド版)では「到達圏」の選択はできません。

2.1 空白地域エリアを円商圏で指定する場合

エリアの種類として「円」を選択します。

プロットグループを選択し、プロットの半径を入力し[↓]ボタンをクリックします。属性値による条件を付けたい場合には、属性項目とその条件を入力します。これにより、指定されたプロットを中心とした圏内を、抽出領域から除外することができます。設定のキャンセルは[↑]ボタン、あるいはリスト左側のチェックをオフにします。



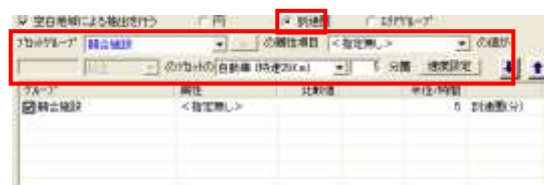
2.2 空白地域エリアを到達圏商圏で指定する場合

ASP サービス(オリコミタウン/ハイブリッド版)では「到達圏」の選択はできません。

エリアの種類として「到達圏」を選択します。

プロットグループを選択し、移動手段(車/自転車/徒歩)を選んで、移動時間を入力し[↓]ボタンをクリックします。[速度設定]をクリックすると、速度の変更が行えます。

属性値による条件については円商圏での指定と同じです。

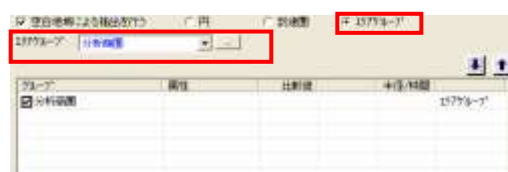


2.3 空白地域を任意のエリアで指定する場合

エリアの種類として「エリアグループ」を選択します。

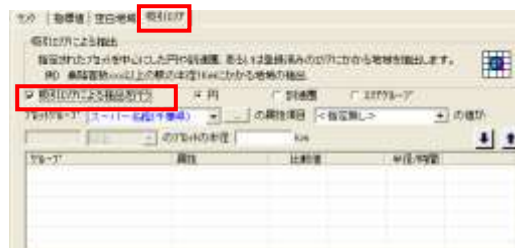
続いて作成済みのエリアグループを選択します。

属性値による条件については円商圏での指定と同じです。



5.5.1.4 吸引エリア条件を設定する

1. 「吸引エリア」タブを選択し、「吸引エリアによる抽出を行う」のチェックをオンにします。

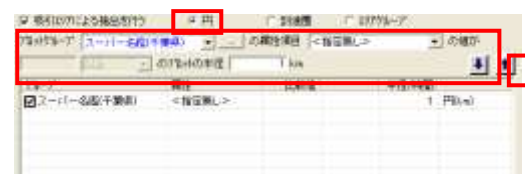


2. 吸引エリアを指定します。
吸引エリアの選択種類には「円」「到達圏」「エリアグループ」があります。
ASP サービス(オリコミタウン/ハイブリッド版)では「到達圏」の選択はできません。

2.1 吸引エリアを円商圏で指定する場合

エリアの種類として「円」を選択します。

プロットグループを選択し、プロットの半径を入力し[↓]ボタンをクリックします。属性値による条件を付けたい場合には、属性項目とその条件を入力します。これにより、指定されたプロットを中心とした圏内が、抽出領域となります。設定のキャンセルは[↑]ボタン、あるいはリスト左側のチェックをオフにします。

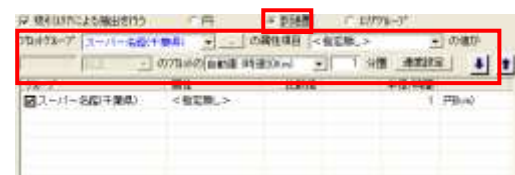


2.2 吸引エリアを到達圏商圏で指定する場合

ASP サービス(オリコミタウン/ハイブリッド版)では「到達圏」の選択はできません。

エリアの種類として「到達圏」を選択します。

プロットグループを選択し、移動手段(車/自転車/徒歩)を選んで、移動時間を入力し[↓]ボタンをクリックします。[速度設定]をクリックすると、速度の変更が行えます。属性値による条件については円商圏での指定と同じです。



2.3 吸引地域を任意のエリアで指定する場合

エリアの種類として「エリアグループ」を選択します。

続いて作成済みのエリアグループを選択します。

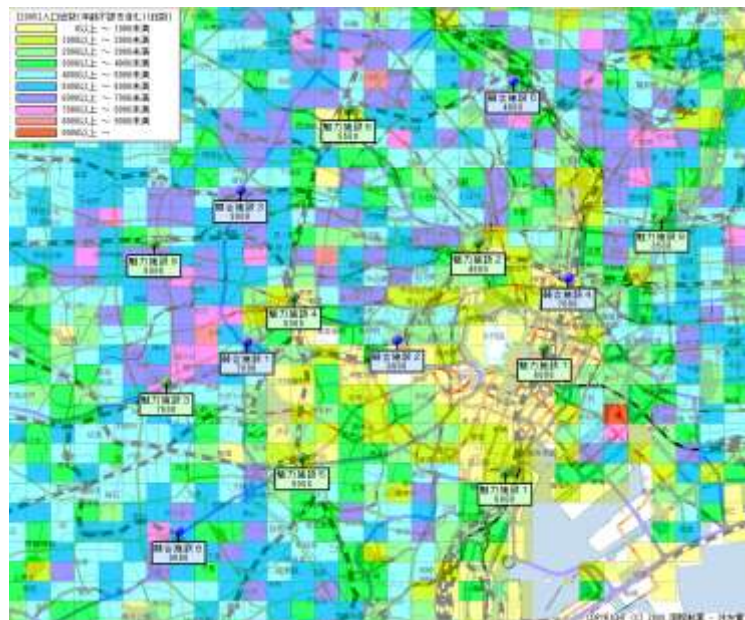
属性値による条件については円商圏での指定と同じです。



5.5.2 抽出実行と条件のリセット

以下では、抽出の実行と条件のリセットについて説明します。

1. 条件を設定し「抽出実行」ボタンをクリックすると、条件に合致した領域が地図上に表示されます。



「抽出条件」は以下の通りです。
 [ランク]: 大きい方から5つを選択
 [指標値]: [2005]人口総数が 5500 以上
 [空白地域]: 競合施設の施設面積が 5000 以上、1km 圏
 [吸引エリア]: 魅力施設の施設面積が 5000 以上、2km 圏

2. 「抽出条件リセット」ボタンをクリックすると、条件がクリアされ、元のグラフ表示に戻ります。

5.5.3 表示設定とグラフプロパティ

以下では、集計結果条件抽出の表示設定とグラフプロパティについて説明します。

5.5.3.2 表示設定を行う

1. 「表示設定」ボタンをクリックします。

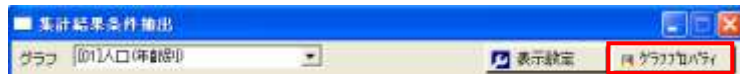


2. 抽出したグラフおよび空白地域や吸引エリアの表示方法を設定(変更)できます。



5.5.3.3 グラフプロパティを変更する

1. 「グラフプロパティ」ボタンをクリックします。



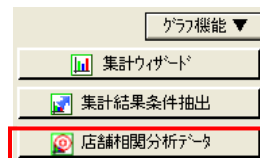
2. 抽出したグラフおよび空白地域や吸引エリアの表示方法を設定(変更)できます。



5.6 店舗相関分析データ作成

以下では、プロット(店舗)を中心とした商圈を作成し、統計値、近傍プロットとの距離、プロットの属性値などの集計を行う「店舗相関分析データ作成」の操作方法について説明します。

1. 「店舗相関分析データ」ボタンをクリックします。



「店舗相関分析データ集計」画面が開きます。



店舗相関分析データの作成はこの画面上で、

- ・ 分析対象プロットグループ選択
- ・ 集計範囲設定
- ・ 集計項目設定
- ・ 集計実行
- ・ 集計結果出力

の順で操作を行ってゆきます。

5.6.1 分析対象プロットグループを選択する

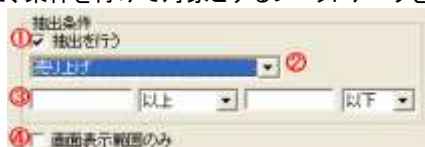
1. 「分析対象プロットグループ選択」ボタンをクリックします。




2. 「分析対象プロットグループ選択」画面が開きます。
分析対象とするプロットグループについて、プロットグループツリー上の口をクリックしてチェックします。



3. (必要であれば)条件による抽出を行います。
選択したプロットグループに対して、条件を付けて対象とするプロットデータを抽出することができます。



- ① 「☐ 抽出を行う」の口をクリックします。
- ② 「▼」をクリックして、条件を設定する属性項目を選択します。
- ③ 条件値の範囲を設定します。
- ④ 抽出の範囲を画面表示内のみとする場合は、「☐ 画面表示範囲のみ」の口をクリックします。

 画面表示範囲のみは、「☐ 抽出を行う」にチェックしなくても指定可能です。

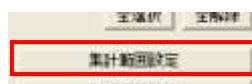
4. 「OK」ボタンをクリックします。

5. 「店舗相関分析データ集計」画面に一覧が表示されるので、分析対象とするプロットを選択してください。

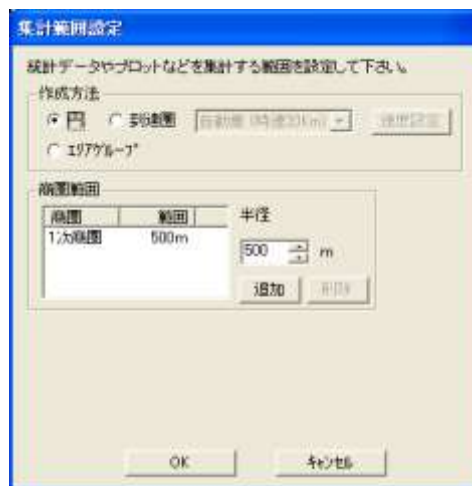


5.6.2 集計範囲を設定する

1. 「集計範囲設定」ボタンをクリックします。



2. 「集計範囲設定」画面が開きます。
集計範囲の設定は、
① 円
② 到達圏
③ エリアグループ
のいずれかで指定できます。



- ① 円商圏で指定する。
半径を設定し、[追加]ボタンをクリックしてください。



② 到達圏商圏で指定する



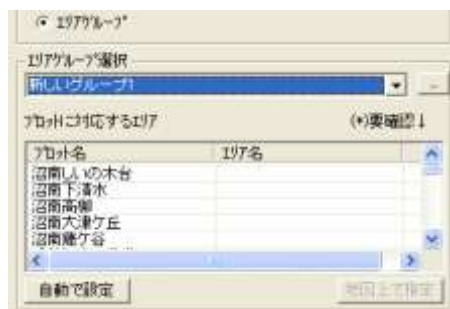
- ・ 移動手段(車/徒歩/自転車)を、ドロップダウンリストから選択します。
- ・ [速度設定]ボタンをクリックすると、速度の変更が行えます。
- ・ 「○時間」または「○距離」を選択し、値を設定して[追加]ボタンをクリックしてください。



ASP サービス(オリコミタウン/ハイブリッド版)では「到達圏」を選択した場合、商圏の最大個数は 50 となります。

③ エリアグループで指定する。

「作成方法」で「○エリアグループ」を選択します。設定画面の下部がエリアグループの選択画面に変わります。商圏エリアとして設定するエリアグループを選択してください。



次に、個々のプロットと商圏エリアを結びつけを行います。2つの方法があります。

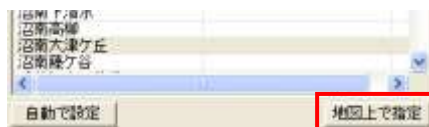
・ 自動で設定

[自動で設定]ボタンをクリックすると、ひとつひとつのプロットについてそれを含むエリアを検索し、自動で結びつけを行います。そのプロットを含むエリアが複数ある場合は、エリアの重心点とプロットの距離が一番近いものをそのプロットの商圏エリアと判定します。この場合、一覧上に「*」を付けて、候補が複数あったことを示します。

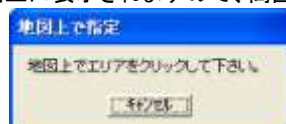


確認をするには、一覧上で「*」のある行を選択すると、地図上でエリアが反転表示されます。エリアとの結び付けを変更するには[地図上で指定]ボタンをクリックします。

- ・ 地図上で指定
プロットとエリアの結びつきを地図上で指定する場合は、結び付けを行うプロットを一覧上から選択し[地図上で指定]ボタンをクリックします。

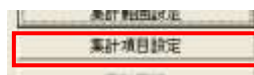


「地図上で指定」ダイアログが地図上に表示されますので、商圏とするエリアをクリックしてください。

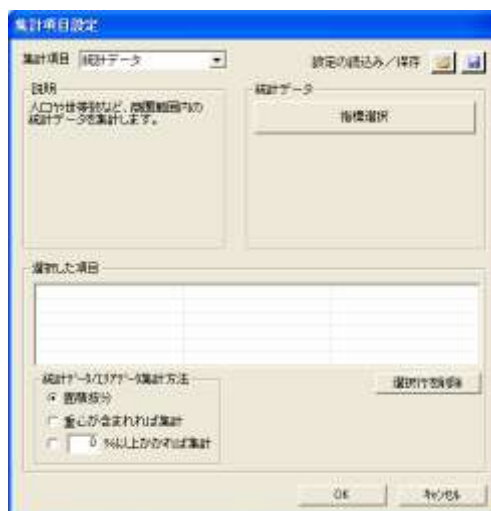


5.6.3 集計項目を設定する

1. 「集計項目設定」ボタンをクリックします。



2. 「集計項目設定」画面が開きます。



集計する項目を設定します。以下を組み合わせで選択することが可能です。

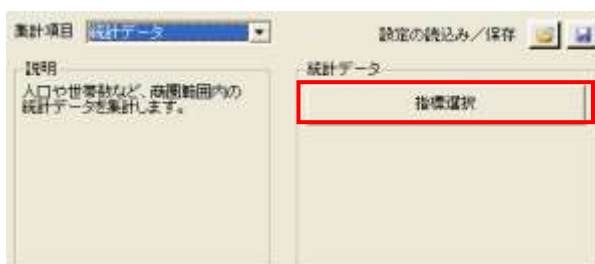
- ① 統計データ
- ② プロット属性
- ③ プロット距離
- ④ 商圏内プロット集計
- ⑤ エリア属性値
- ⑥ エリア集計

集計項目の選択は画面左上部のドロップダウンリストの「▼」をクリックして行います。

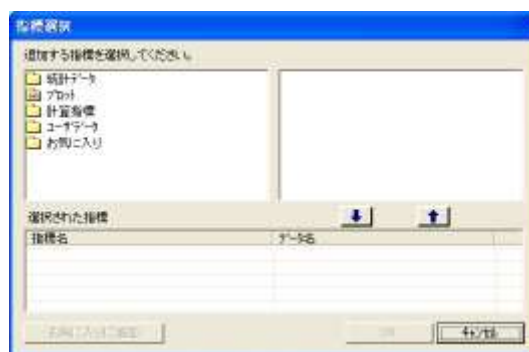


① 統計データ

人口や世帯数など、商圈範囲内の統計データを集計します。集計値の算出方法は、面積按分／重心／n%かかる、から選択可能です。



- ・ [指標選択]ボタンをクリックしてください。
- ・ 集計ウィザードの指標選択と同様の指標選択画面が開きますので対象とする指標を選択してください。



② プロット属性

分析対象プロットの属性値を集計表に取り込みます。例えば、店舗プロットの「売り上げ」などを指定します。



分析対象プロットグループで選択したプロットグループの属性項目が一覧表示されます。集計表に取り込む属性値を□をクリックして選択してください。
選択後、[↓]追加ボタンをクリックして下さい。

③ プロット距離

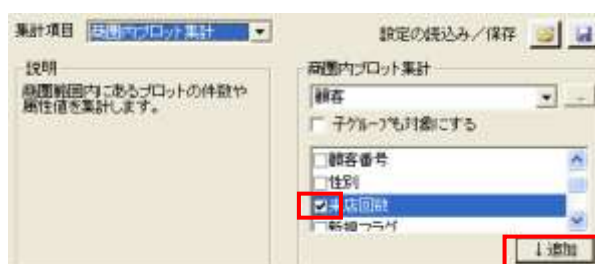
分析対象プロットの最も近傍にある他プロットとの直線距離を集計します。例えば、駅や大型SCなどを指定します。



対象プロットグループを選択して、[↓]追加ボタンをクリックして下さい。

④ 商圏内プロット集計


商圏範囲内にあるプロットの件数や属性値を集計します。例えば顧客プロットグループを指定することで、商圏内の顧客数や来店回数などを集計できます。

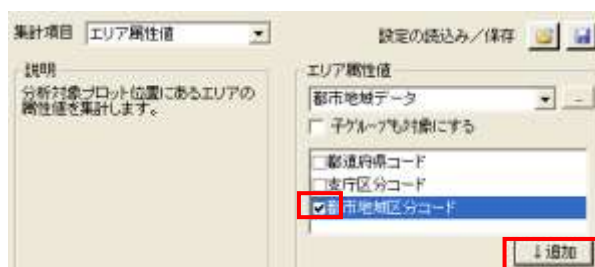


- ・ 集計したいプロットグループを選択します。
- ・ 選択したプロットグループの属性項目が一覧表示されますので、集計したい項目の口をクリックして選択して下さい。
- ・ [↓]追加ボタンをクリックして下さい。

⑤ エリア属性値

分析対象プロット位置にあるエリアの属性値を集計表に取り込みます。例えば、都市地域のエリアデータがあるとして、そのプロット位置の都市地域コードを取り込むなどが考えられます。

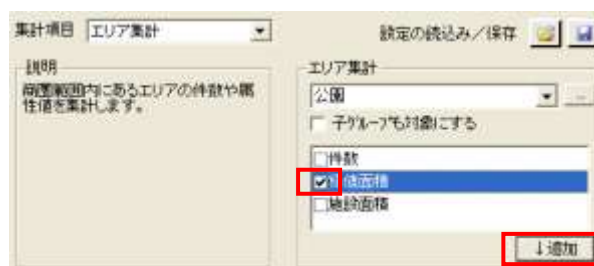
 プロットを含むエリアが複数ある場合は、プロット位置とエリアの重心点の直線距離が最も近いエリアの属性値が採用されます。



- ・ 集計したいエリアグループを選択します。
- ・ 選択したエリアグループの属性項目が一覧表示されますので、集計したい項目の口をクリックして選択して下さい。
- ・ [↓]追加ボタンをクリックして下さい。

⑥ エリア集計

商圈範囲内にあるエリアの件数や属性値を集計します。例えば、緑地のエリアデータを指定して、商圈内の緑地面積を集計するなど。



- ・ 集計したいエリアグループを選択します。
- ・ 選択したエリアグループの属性項目が一覧表示されますので、集計したい項目の口をクリックして選択してください。
- ・ [↓]追加ボタンをクリックして下さい。

⑦ 面積按分の指定

統計データ集計、エリア集計については、商圈エリアにかかる行政区/メッシュ/エリアデータの集計方法が指定できます。

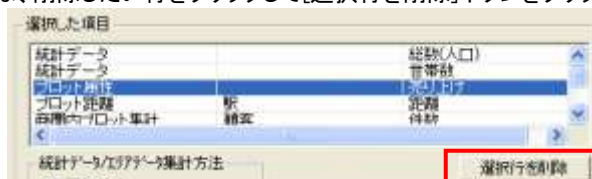
集計方法の選択

| | |
|-------------|---|
| 面積按分 | 行政区(メッシュ)にエリアが掛かっている割合で、統計値を按分して集計します。 |
| 重心が含まれれば集計 | 行政区(メッシュ)の重心点がエリア内に含まれていれば、その行政区(メッシュ)の統計値を 100%集計します。 |
| xx%以上かかれば集計 | 行政区(メッシュ)がエリアに指定した割合以上かかっている場合は、その行政区(メッシュ)の統計値を 100%集計します。0%を指定すると、少しでもかかっている場合は集計、を意味します。 |

⑧ 選択した項目の削除

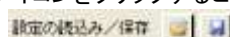
集計対象として選択した項目は、一覧リスト上に記載されています。

項目を削除するには、削除したい行をクリックして[選択行を削除]ボタンをクリックします。



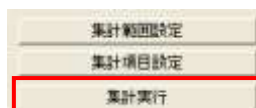
⑨ 選択した項目の保存/読み込み

選択した項目は、読み込みアイコン、保存アイコンをクリックすることでファイルに保存/読込ができます。



5.6.4 集計を実行する

分析対象プロットグループ選択、集計範囲設定、集計項目設定を終えると「集計実行」ボタンが有効になります。



[集計実行]ボタンをクリックすると集計が行われ、集計結果一覧に集計値がセットされます。

集計結果

1次商圏 ▼ 出力 ▼

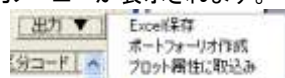
| プロット名 | 総数(人口) | 世帯数 | 売上上げ | 最寄駅 | 最寄駅距離(m) | 顧客:件数 | 都市地帯データ:都市地帯区分コード |
|-------|--------|------|------|-----|----------|-------|-------------------|
| 沼南上 | 2508 | 867 | 3439 | 元山駅 | 1030 | 83 | 市街化区域 |
| 沼南下 | 73 | 22 | 6005 | 高崎駅 | 3515 | 2 | 市街化調整区域 |
| 沼南高 | 517 | 189 | 3745 | 高崎駅 | 1167 | 12 | 市街化調整区域 |
| 沼南大 | 1771 | 629 | 4793 | 逆井駅 | 1891 | 108 | 市街化区域 |
| 沼南緑 | 260 | 92 | 2362 | 西白 | 2519 | 1 | 市街化調整区域 |
| 千葉沼 | 291 | 87 | 1458 | 我孫 | 2777 | 6 | 市街化調整区域 |
| 南柏豊 | 2092 | 828 | 8573 | 南柏駅 | 679 | 157 | 市街化区域 |
| 柏4丁目 | 2105 | 1181 | 7052 | 柏駅 | 258 | 384 | 市街化区域 |
| 柏の葉 | 544 | 204 | 5759 | 柏の | 405 | 10 | 市街化区域 |
| 柏地町 | 3419 | 1591 | 3139 | 柏駅 | 595 | 242 | 市街化区域 |
| 柏駅南 | 2542 | 1386 | 5869 | 柏駅 | 118 | 333 | 市街化区域 |
| 柏加賀 | 2445 | 922 | 2038 | 増尾駅 | 188 | 102 | 市街化区域 |
| 柏花野 | 1367 | 489 | 185 | 柏の | 920 | 66 | 市街化区域 |
| 柏緑場 | 3237 | 1341 | 9770 | 柏駅 | 1465 | 179 | 市街化区域 |
| 柏逆井 | 2549 | 966 | 5411 | 逆井駅 | 149 | 163 | 市街化区域 |
| 柏光ヶ丘 | 3690 | 1456 | 4922 | 新柏駅 | 1204 | 218 | 市街化区域 |
| 柏南田 | 938 | 360 | 7320 | 豊西 | 1420 | 73 | 市街化区域 |
| 柏横戸 | 1969 | 768 | 8194 | 北柏駅 | 1120 | 23 | 市街化区域 |
| 柏緑地 | 1804 | 687 | 7761 | 豊西 | 1110 | 55 | 市街化区域 |

結果クリア

- 集計結果を表示する商圏範囲を変更するには、商圏名の右の「▼」をクリックし、ドロップダウンリストから選択します。

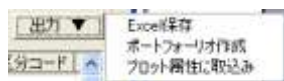


- [出力▼]ボタンをクリックすると、出力メニューが表示されます。



5.6.5 集計結果を出力する

1. 集計結果表上の出力▼]ボタンをクリックすると、出力メニューが表示されます。



以下の出力が可能です。

- ① Excel 保存
集計結果を Excel に出力します。
- ② ポートフォリオ作成
- ③ プロット属性に取り込み

- ① Excel 保存
集計結果を Excel に保存します。

メニューから[Excel 保存]を選択すると、名前を付けて保存ダイアログが表示されます。



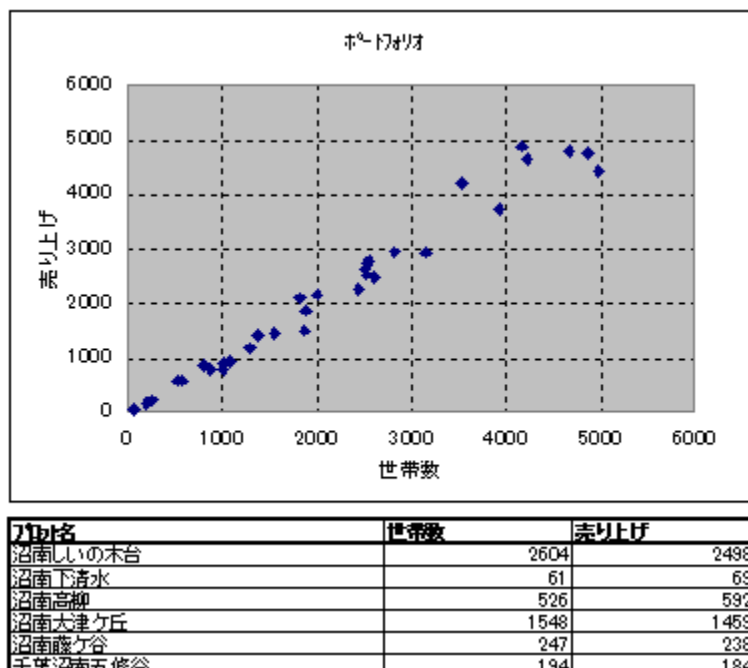
保存先フォルダ、保存ファイル名を設定して、[保存]ボタンをクリックしてください。

- ② ポートフォリオ作成
集計結果から2つの指標を選択して、Excel にポートフォリオを出力します。

メニューから[ポートフォリオ作成]を選択すると、「ポートフォリオ作成」画面が開きます。



分析項目となる2指標と、出力先を指定して[Excel 出力]ボタンをクリックするとポートフォリオ Excel ファイルが作成されます。



③ プロット属性に取り込み

集計結果を分析対象プロットの属性項目に取り込むことができます。例えば、この機能を使って店舗の最寄駅を店舗プロットにセットすることなどが可能です。

メニューから[プロット属性に取り込み]を選択すると、「プロット属性に取り込み」画面が開きます。



取り込む属性項目、何次商圏の値を取り込むのかを指定し、[OK]ボタンをクリックすると、集計値のプロット属性への取り込みが行われます。

指定した項目がすでにプロットグループの属性に存在する場合は、以下のようなメッセージが表示されます。



- ・ 上書きで取り込む場合は「はい」を、
- ・ 重複しない属性のみ取り込み、重複している属性項目については上書きしない場合は「いいえ」を、
- ・ そもそも、今回の取り込み自体を行わない場合は「キャンセル」を選択してください。